

● 会長・副会長・地区幹事の選挙公示（種生物学会選挙管理委員会）

現役員の任期（2012年12月31日まで）が近づいているため、次期役員の実施します。今後3年間の種生物学会の運営を担う役員を選出する重要な選挙です。各役員の任期は2013年1月1日から2015年12月31日です。会員の皆さまのご意見を役員の人選に反映させていただきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

記

会長：1名 副会長：1名

地区幹事：14名（北海道1名、東北2名、関東4名、中部2名、近畿3名、中国四国1名、九州沖縄1名）

投票用紙記入の注意

1) 会長・副会長の投票に際しては、それぞれ1名の氏名をご記入ください。2名以上記入した場合は無効となります。2) 地区幹事の投票に際しては、所属地区の定員以内の人数の氏名をご記入ください。地区定員を超えた人数を記入した場合は無効となります。3) 会長、副会長、地区幹事として同じ会員（被選挙権を持つ方）に投票しても有効です。

被選挙権

会則により会長の再選が禁じられているため、次の7名には会長の被選挙権がありません。

伊藤元己、可知直毅、角野康郎、河野昭一、堀田 満、森田竜義、矢原徹一

会則により地区幹事の連続3選が禁じられているため、次の2名には地区幹事の被選挙権がありません。

藤井伸二、國井秀伸

候補者

会則および選挙に関する規則に従い、以下の候補者を幹事会より推薦します。なお、幹事会が推薦した下記の候補者以外の被選挙権を持つ会員への投票も有効です。

会長候補者 川窪伸光

副会長候補者（五十音順） 大原 雅、加藤 真、西脇亜也

投票用紙の送付

ご記入いただいた投票用紙は、同封の返信用封筒で下記の選挙管理委員会宛に郵送をお願いいたします。封筒には住所、氏名、地区名を必ずご記入ください。

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学大学院 理学研究科 生物学専攻 小菅研究室気付
種生物学会選挙管理委員会

11月22日（必着）です、それ以降のものは無効となりますのでご注意ください。

選挙人名簿

北海道地区

■■■■■
■■■■■
■■■■■
■■■■■

■■■■■
■■■■■
■■■■■
■■■■■

■■■■■
■■■■■
■■■■■
■■■■■

■■■■■
■■■■■
■■■■■
■■■■■

[Redacted text block]

東北地区

[Redacted text block]

[Redacted text block]

関東地区

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

中部地区

[Redacted text block]

[Redacted text block]

近畿地区

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

中国・四国地区

[Redacted text block]

■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■

九州・沖縄地区

* 名誉会員

※ 海外にご滞在中の■■■■■会員, ■■■■■会員および 2012 年度末または 2013 年度末に退会予定のご連絡をいただいている方々については、本名簿にご氏名を掲載しておりません。

● 第44回 種生物学シンポジウムのご案内（実行委員長 川北 篤）

今年の種生物学シンポジウムは 12 月 7 日～9 日に奥琵琶湖のほとり、マキノパークホテル&セミナーハウスで開催します。昨年に引き続き合宿形式での開催です。どうぞ奮ってご参加ください。

今年は 1 日目に「タケとササの種生物学」、2 日目に「エコロジカル・エピジェネティクス」という 2 つのシンポジウムを企画しています。タケやササは私たちになじみ深い植物でありながら、その生態は謎に包まれた部分が少なくありません。1 日目のシンポでは、分類、生活史、生態系機能、景観保全といった幅広い視点から、タケとササに関する最近の成果が紹介されます。2 日目のシンポでは、エコロジカル・エピジェネティクスという新しい分野が取り上げられます。エピジェネティック変異がもたらす可塑性な表現型は、野外で生きる生物にとってどんな意味をもち、進化や適応にどう関わるのか。分析手法を含めて豊富な事例が紹介されます。今年は種生物学の本流から分子生態学の最先端まで幅広い話題が集まり、例年にも増して多様性の高いシンポジウムになりそうです。

プレシンポジウムでは、九州大学総合研究博物館の丸山宗利さんをお招きし、好蟻性昆虫の多様性について講演していただきます。アリの巣にはさまざまな昆虫が忍び込んで暮らしており、アリに依存した生活史をもつこれらの昆虫は好蟻性昆虫と呼ばれます。丸山さんはこれまで日本や東南アジア各地でアリの巣を精力的に調査され、数々の好蟻性昆虫の新種を記載するとともに、分類体系の構築や生態の解明に大きく貢献されてきました。近著「アリの巣をめぐる冒険」では、アリの巣の中に広がる思いもよらない世界が、発見の興奮とともに紹介されています。好蟻性昆虫の多くは奇抜な姿をしており、その生態も数奇というほかありませんが、種分化、寄生性の進化、形態や行動の進化など、種生物学と関わりが深いさまざまなテーマを考える上でも、好蟻性昆虫のお話から多くのことを学べると考えています。

また上記のシンポジウムの他に、ポスター発表も受け付けます。種生物学シンポの伝統にならい、夜遅くまでとことん議論ができるよう会場を準備しております。ポスター賞もありますので、奮ってご応募ください。さらに、シンポジウム後の 12 月 10 日（月）に、シンポジウム 1 の企画者でもある竹林景観ネットワーク（BaLaNET）の主催によるエクスカッションが企画されています。滋賀県近江八幡市の竹林めぐり、拡大する竹林と地域の方々の取り組みが紹介される予定です。シンポジウムと合わせてぜひご参加ください。

日時 2012年12月7日(金) ~ 12月9日(日)
会場 奥琵琶湖マキノパークホテル&セミナーハウス
滋賀県高島市マキノ町高木浜 2-1-5 TEL: 0740-28-1231
URL: <http://www.hachikougen.co.jp/#makino>

12月7日(金)

17:00- 受付開始
18:00-19:00 夕食
19:00-20:30 プレシンポジウム
丸山宗利(九州大学総合研究博物館)「好蟻性昆虫の多様性について(予定)」

12月8日(土)

8:00-9:00 朝食
9:00-11:50, 15:00-17:10 シンポジウム 1
12:00-13:00 昼食
13:00-15:00 ポスター発表
17:30-18:30 種生物学会 2012 年度総会
18:30-20:30 懇親会/片岡奨励賞・Plant Species Biology 論文賞・ポスター賞授与式

シンポジウム 1 「タケとササの種生物学」

企画者: 小林 剛(香川大学), 久本洋子(東京大学), 福島慶太郎(京都大学), 鈴木重雄(立正大学), 河合洋人(岐阜大学) *竹林景観ネットワーク第11回研究集会(BaLaNET 11)

タケやササは、マツやサクラなどと並び日本人の生活や文化と深く関わっている植物である。日本ではその利用や管理がかねてから重視されてきたが、人間活動にともない侵入植物として分布を拡大してきており、在来種の更新や潜在自然植生への移行を阻害する存在としても注目を集めている。一方、タケ・ササ類の生活史の解析や個体群・遺伝構造には大きな関心が持たれつつも、巨大なクローナル植物であり有性繁殖が稀であることから必ずしも実証が進んでいなかった。その結果、一般市民はもちろん研究者の間でさえタケ・ササの振る舞いに関する認識や解釈に齟齬を感じざるを得ない場面が生じている。本シンポジウムではまず「〇〇ササと××ザサは別種なのか?」「タケは本当にX年に一回しか開花しないのか?」といった疑問に対し、近年の分子生物学的な手法によって確かめられつつある解答を提示する。次に、日本で最も危険な外来生物となっているモウソウチクの侵入地の例などに基づいて、タケやササが生物多様性だけでなく生態系の機能やサービスに極めて強い独特な影響を持っていることを概観し、それらと生活史特性との関連性について考える。さらに、タケ・ササが日本の里山の景観や生態系を劇的に変貌させている事に対して、研究者以外によってどのような活動がなされ、タケ・ササに関するどのような研究やそのアウトリーチが求められているかについて検討する。以上の話題に基づいて、タケ・ササの研究に関する今後の課題の整理や、研究成果の啓蒙を促すための種生物学の方向性について議論する。

全体の進行(河合洋人), 各部の進行(各部コーディネーター)

9:00-9:05 全体の趣旨説明 小林 剛

第1部「近年の分子系統解析・分子機能解析が変える従来のタケとササの分類体系と生活史の概念」(コーディネーター：久本洋子)

9:05-9:10 第1部の趣旨説明(久本洋子)

9:10-9:40 小林幹夫(宇都宮大学名誉教授)「タケ・ササ類の分類体系と分布類型」

9:40-10:10 陶山佳久(東北大学)「タケとササの分子生態学」

10:10-10:40 北村系子(森林総合研究所)「開花の個性性と繁殖様式」

10:40-10:45 第1部に関する討論とまとめ(久本洋子)

10:45-10:55 休憩

第2部「巨大クローナル植物の侵入が引き起こしている生物多様性と生態系機能の変化：種生物学と群集生態学・生態系生態学との接点」(コーディネーター：福島慶太郎)

10:55-11:00 第2部の趣旨説明(福島慶太郎)

11:00-11:25 福澤加里部(北海道大学)「冷温帯林の炭素・窒素動態におけるササの役割」

11:25-11:50 篠原慶規(九州大学)「モウソウチク林における水循環：他の森林タイプとの比較」

15:00-15:25 梅村光俊(名古屋大学)「モウソウチク林におけるケイ素循環と植物ケイ酸体としての挙動」

15:25-15:50 福島慶太郎(京都大学)「全国に分布するモウソウチクの遺伝的多様性と形態的可塑性」

15:50-15:55 第2部に関する討論とまとめ(福島慶太郎)

第3部「タケとササの侵入・分布拡大に種生物学は何ができるのか？：種生物学の新たな役割と社会との接点を探る」(コーディネーター：鈴木重雄・河合洋人)

15:55-16:00 第3部の趣旨説明(河合洋人)

16:00-16:30 鎌田磨人(徳島大学)「拡大を続ける竹林への対峙と竹林再生活動に必要な情報(仮)」

16:30-16:40 第3部に関する討論・まとめと総合討論への序論(河合洋人)

総合討論

16:40-16:50 井鷲裕司(京都大学)「タケとササの種生物学に対する総合コメント」

16:50-17:10 討論

12月9日(日)

8:00-9:00 朝食

9:00-12:10, 13:10-16:10 シンポジウム2

12:00-13:00 昼食

シンポジウム2「エコロジカル・エピジェネティクス-可塑性メカニズムの適応・進化的意義を探る-

企画者：荒木希和子(京都大学)，土畑重人(琉球大学)

エピジェネティクスはゲノム配列の変化を伴わない遺伝子発現制御機構の総称であり、DNA シトシンメチル化やヒストン修飾などによって生じる。近年、ヒトをはじめとしたモデル動植物においてそのメカニズムの詳細が明らかになりつつある。エピジェネティック変異は発生過程や環境変化によって誘発され、表現型に遺伝しうる変異をもたらすことから、環境応答に対する適応的な意義が示唆されているが、生態的・適応進化的意義に関しては十分議論が進んでいない。

エピジェネティック変異は遺伝的変異を介さない環境応答にも関わることから、むしろ変動する気候環境や複雑な種内・種間相互作用に曝されながら生きる野生生物にとって重要なメカニズムであり、これまで遺伝的変異のみでは説明できなかったような生物の応答や環境との相互作用もエピジェネティクスによって説明できるかもしれない。

そこで、本企画では、エピジェネティック変異のメカニズムと表現型への影響の多様な事例を、どのような生態的現象と結び付けられるかと併せて紹介するとともに、分析手法も紹介することで今後の生態学的研究の新たな分野を切り開くための話題を提供したい。

9:00-9:10 企画趣旨 荒木希和子 (京都大学)

9:10-9:45 玉田洋介 (基礎生物学研究所) 「クロマチン修飾と非コード RNA が制御するエコロジカル・エピジェネティクス」

9:45-10:20 星野敦 (基礎生物学研究所) 「アサガオの模様を生み出すエピジェネティクス」

10:20-10:30 休憩

10:30-11:05 伊藤秀臣 (北海道大学) 「環境ストレスとゲノム進化—高温ストレス活性型トランスポゾンと宿主の攻防—」

11:05-12:10 荒木希和子 (京都大学) 「クローン植物集団におけるエピジェネティック変異の空間構造」

13:10-13:45 小林一三 (東京大学) 「多様なエピゲノムからの選択によって進化が実現する：細菌の配列特異的 DNA メチル化にもとづく仮説」

13:45-14:20 鈴木俊介 (信州大学) 「ゲノム比較から探る哺乳類ゲノムインプリンティングの起源と進化」

14:20-14:45 土畑重人 (琉球大学) 「予測されたエピジェネティクス：コンフリクト理論でひも解くゲノムインプリンティングの進化」

14:45-14:55 休憩

14:55-15:20 西村泰介 (名古屋大学) 「エピジェネティクス解析手法—いくつかの具体例とともに—」

15:20-15:40 コメンテーター 田中健太 (筑波大学)・長谷部光泰 (基礎生物学研究所) 「展望：エコロジカル・エピジェネティクス」

15:40-16:10 総合討論

参加申込

参加申し込みは原則としてオンラインにて受け付けます。種生物学会のホームページの第 44 回種生物学シンポジウム申込のページ (<http://www.speciesbiology.org/form/>) から参加申し込みをおこなってください。

参加申し込み締め切り：11月16日(金)

ポスター発表の募集

例年通り、ポスターセッションを行います。ポスター発表を希望される方は、参加申し込みと同時にホームページからポスター発表を申し込んでください。

- ・ポスター発表の主たる発表者（演者）は、種生物学会会員に限ります。
- ・種生物学会への入会を希望される方は、種生物学会ホームページの入会案内 <http://www.speciesbiology.org/entree/> よりご入会ください。
- ・ポスター発表をされる方は、11月23日（金）までに、要旨をA4サイズ1ページ（WordまたはPDF形式）でご作成いただき、メール添付にて実行委員会・川北（kawakita@ecology.kyoto-u.ac.jp）までお送り下さい。冒頭にタイトルと発表者（所属）をご記入いただきたいほかは、形式は自由です。図表を含めることもできますが、印刷はモノクロとなります。
- ・ポスターはA0縦サイズ、またはそれに準じた大きさでご準備下さい。
- ・ポスター賞に応募するかどうかのチェックも忘れずをお願いします。

ポスター発表の申込締切：11月16日（金） ※要旨の締め切りは11月23日（金）

参加費

一般（会員）4,000円 一般（非会員）5,000円

学生（会員）2,000円 学生（非会員）3,000円

- ・11月16日以降の入金、ないし当日参加は1,000円増しになります。
- ・11月16日の時点で非会員の方は、非会員料金をお支払ください。

宿泊費（食費・懇親会費を含む）

一日目 一般 8,000円 学生 6,000円

二日目 一般 11,000円 学生 8,000円

- ・男女別の和室で相部屋になります。
- ・部屋にはバスタオル、歯ブラシ、浴衣等は用意されていませんので、各自でご用意下さい。浴室にはシャンプー、ボディソープがあります。

参加費・宿泊費の振り込み

参加費および宿泊費の合計金額を以下の口座までご送金ください。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの場合、ATMを利用すると手数料がかかりません。ゆうちょ銀行の口座をお持ちでない場合は、窓口から電信払込みによりご送金ください。他金融機関からもお振込みいただけます。

- ・ゆうちょ銀行のATMまたは窓口からお振込みの場合

ゆうちょ銀行

口座記号番号：14630-12719791

加入者名：種生物学シンポ実行委員会

- ・他金融機関からお振込みの場合

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：四六八（ヨンロクハチ）

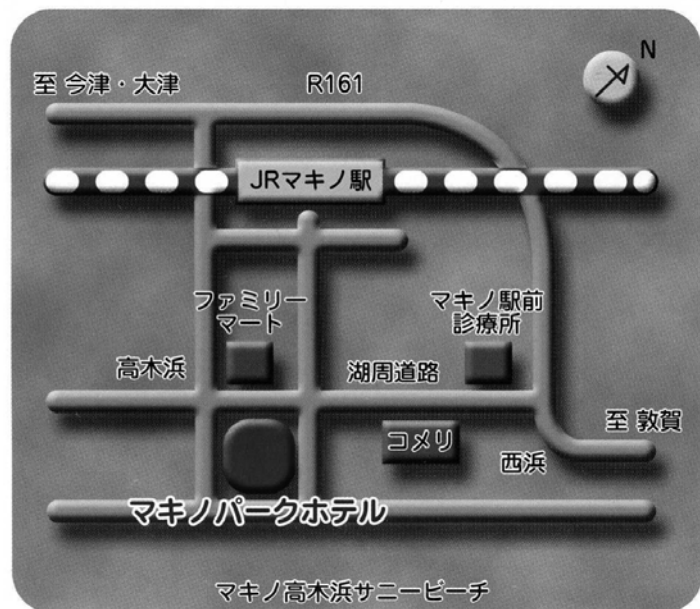
口座番号：普通 1271979

その他

- ・万一、宿泊の予約を変更される場合は、できるだけ早めに実行委員会までご連絡ください。直前に予約を変更、取り消した場合、キャンセル代金をお支払いいただくことがあります。
- ・全日程参加できない方は、宿泊および食事の予約および料金について実行委員会にご相談ください。

交通案内

JR 湖西線マキノ駅から南東へ約 500m (徒歩 10 分)、琵琶湖の湖岸近くにあります。マキノ駅に停車する列車の本数は非常に少ないのでご注意ください。



● 竹林拡大の現場を見る-近江八幡エクスカージョン-のご案内 (BaLaNET 事務局 鈴木重雄)

12月8日(土)のシンポジウム「タケとササの種生物学」の企画者は、竹林景観ネットワーク (BaLaNET) のメンバ

ーでもあります。BaLaNET は、生態学、林学、地理学など多分野で活躍するタケ研究者の橋渡しをすると同時に、竹林が引き起こす様々な問題を解決しようとする地域の人々との結節点となるべく活動している団体です。滋賀県近江八幡市八幡山における竹林を含む景観整備とその利活用にも 2008 年から関わりを持っています。そこで、今回のシンポジウムと併せて、本エクスカージョンを企画し、広がる竹林と、その整備・利活用に向けた地域住民の活動を見学し、種生物学からの社会への発信・貢献について考える機会としたいと考えています。

今回、協力いただく八幡山の景観を良くする会は、2005 年から毎月 2 回のボランティアによるモウソウチクの伐採や、毎春のタケノコ掘り大会を通じて、八幡山を覆う放置竹林の再生活動を行っています。八幡酒蔵工房は、竹林整備で発生した竹材を伝統工芸と融合させてリフォーム・リサイクルを目指す実践や、竹粉の活用を進めています。

日 時 2012 年 12 月 10 日 (月) 8:45～14:30

案内人：鈴木重雄（竹林景観ネットワーク・立正大学）、鳥居厚志（竹林景観ネットワーク・森林総合研究所関西支所）、村西耕爾（八幡山の景観を良くする会）、小関皆乎（八幡酒蔵工房）

参加費：500～1,000 円を予定（決まり次第、竹林景観ネットワークの HP でご案内します）

申し込み方法：12 月 8 日（土）にシンポジウム会場ブースで参加を受け付けます。その際、参加費と昼食代をお支払い下さい。12 月 8 日（土）に参加できない方は、12 月 3 日（月）までに竹林景観ネットワークの鈴木にご連絡ください。

コース：近江八幡駅北口階段下（8：45 集合）→ **日杉山**（八幡公園の竹林を遠望し、竹林の拡大の進行を観察）→ **八幡公園**（放棄竹林・整備竹林の内部の観察、八幡山の景観を良くする会による放棄竹林整備の紹介）→ 八幡神社 → **八幡酒蔵工房**（八幡酒蔵工房の活動紹介、昼食）→ **いまさか・西の湖・竹粉実験畑**（西の湖のアシ原景観と湖上耕作の紹介、竹粉の活用事例の紹介）→ 円山バス停（14：30 解散）

解散場所から近江八幡市街地を経由して、近江八幡駅行きのバスが 14:31 にあります。

注意事項：

- ・種生物シンポ会場（奥琵琶湖マキノプリンスホテル）から近江八幡までは、車で 1 時間半（湖東廻り高速利用）から 2 時間（湖西廻り琵琶湖大橋利用）かかります。10 日の集合時間を考慮すると前日の近江八幡入りをおすすめします。
- ・一部、竹林等の内部に入る箇所がありますので、動きやすい服装・靴で参加して下さい。
- ・ご希望の方には、昼食場所の八幡酒蔵工房で、温かい豚汁＋ご飯（600 円）を用意できます。その他、飲み物・食べ物はお持ち参ください。



連絡・問い合わせ先：

鈴木重雄（竹林景観ネットワーク・立正大学, suzusige_1980@yahoo.co.jp）

竹林景観ネットワーク HP：<http://bambooscape.web.fc2.com/>

● 昨年度の総会の様子

2011年度総会が2011年12月9日に富士Calm（山梨県富士吉田市）にて開催されました。はじめに角野会長から挨拶があり、議長として国立科学博物館の奥山雄大氏が選出されました。報告事項として、庶務報告（角野会長）、英文誌委員会報告（大原編集委員長）、和文誌委員会報告（藤井編集委員長）、2011年度の会計中間報告（2010年1月～2011年11月。小林庶務幹事が布施会計幹事の資料に基づいて説明）2010年度会計監査報告（木下監査）、および片岡基金について（大原基金管理）報告がなされ、監査結果に関しては拍手で承認されました。

審議事項として、小林庶務幹事が布施会計幹事の資料に基づいて2012年の会計予算案が説明されました。また、学会事務局の移転にともなう会則中の学会連絡先（住所）の表記が変更されることが合わせて説明され、いずれも拍手で承認されました。以上の執行部が用意した議題以外に会員からの動議はなく、2011年の総会は無事に終了しました。

● メールニュースの配信強化について

種生物学会では学会から会員の皆さまへの情報提供をより時事的なものとしていくため、電子メールによるメールニュース配信を強化していきます。メールニュースを受けとっていない方（メールアドレスが未登録またはメールアドレスの変更にともなう登録変更がお済みでない方）は、アドレスの登録・更新について ACNet事務局（ac057-sss@canpan.org）までご連絡ください。

● 会費の納入について

種生物学会の年会費は前納制です。2013年度の会費は一般会員 12,000 円，学生会員 6,000 円です。是非お早めにお振込みくださいますようお願い申し上げます。振込金額と振込み用紙につきましては、別送の「会費納入のお願い」をご覧ください。

納入先： 郵便局の払込用紙をご利用の場合
郵便振替 00240-6-45544 加入者名 種生物学会
他の金融機関より納入される場合
ゆうちょ銀行 ○二九店（ゼロニキュウテン）当座 0045544 種生物学会

● 学会事務局について

現在、学会事務局として本会と契約を結んでいる ACNet が 2012 年 12 月に解散します。各会員の方々の連絡先や所属の変更および会費の納入はお早めにお済ましてください。また、2012 年 12 月末以降は事務局の所在と連絡先が変更されますのでご注意ください。2013 年度からの事務局については追って連絡させていただきます。

● 第 6 回片岡奨励賞について

9 月末までホームページおよびメールニュースで公募してまいりましたが、ニュースレターでの公募ができなかったことをお詫び申し上げます。

2012 年 10 月